

◇「G 空間 EXPO」パシフィコ横浜にて開催

地理空間情報産学官連携協議会及びG空間EXPO実行委員会により、平成22年9月19日～21日の3日間、横浜市みなとみらいのパシフィコ横浜において「G空間EXPO」が開催されました。

「G空間EXPO」は、G空間社会の実現に向け、広く国民一般を対象に、地図の流通・ナビゲーションなど新産業の創造に寄与する講演会やシンポジウム、新商品・新サービスの展示会及び関係者の情報交換会等について、産・学・官の連携のもとで初めて開催されたイベントです。3日間で展示会・シンポジウム・体験イベントあわせて、約43,000人の来場がありました。

国土地理院では、4つのセミナー・シンポジウムを開催するとともに、展示会場内において、展示ブースや歩測体験コーナーを設けて、国土地理院の取り組みをアピールしました。

開催期間が連休にあたったこともあり、当日は従来の測量・GISの展示会では見られなかった小学生の親子連れなどが多数見受けられ、多くの体験の催しを楽しんでいました。G空間社会が私達の生活にとって身近なものになりつつあることを印象付けるイベントとなりました。



エントランス



国土地理院展示ブース



セミナーの様子



体験イベントの様子（企業ブース）

◇「地理空間情報の活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議」を開催

9月28日、富山市民プラザにおいて、「地理空間情報の活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議」（以下、「北陸地方産学官会議」という。）が30名の委員、吉兼国土地理院参事官、及び多数のオブザーバーの参加により開催されました。北陸地方産学官会議は、地理空間情報に係わる課題認識と情報について産学官間で共有化を図り、地理空間情報の効果的な活用を推進する目的で昨年度より開催されています。

会議では、吉兼参事官より「地理空間情報高度活用社会の実現に向けて」と題し、基盤地図情報の整備が初期整備から更新に向けシフトして行くため、更新の仕組み作りが重要になってくる旨の説明がありました。また、学の3名の委員から、地理空間情報を活用した研究についての発表があり、産の委員からは、地震災害時におけるGISの有効な利活用についての発表がありました。

会議では、基盤地図情報の整備・更新には、官の主導的な役割が大きいとの意見が出され、県が所有しているデータによる基盤地図情報の更新について具体的な検討を行うため、分科会の設置が提案され、11月下旬に新潟県と事務局により分科会を開催することが決まりました。また、第2回の北陸地方産学官会議を来年1月下旬にも開催し、分科会報告を受けることが確認されました。

発表課題と発表者

- ・ 地理空間情報高度活用社会の実現に向けて
国土地理院参事官 吉兼 秀典
- ・ 北陸地方における基盤地図情報の整備状況
北陸地方測量部
地理空間情報管理官 服部 雄治
- ・ 圃場GISを基盤とした衛星RSによる営農情報の収集
長岡技術科学大学教授 力丸 厚
- ・ 建築町並み保全における空間情報技術の活用
金沢工業大学准教授 下川 雄一
- ・ 獣害対策支援のための地理情報システムの構築
福井工業高等専門学校准教授 辻野 和彦
- ・ 2007年新潟県中越沖地震の災害地震とGIS
にいがたGIS協議会 坂井 宏子



会議の様子



鹿田座長（金沢工業大学）

◇平成23年度予算概算要求の概要発表

8月30日、国土地理院は、「どこでも安心して快適に過ごせる活力ある社会」の実現のため、基本測量に関する長期計画（平成21年度～平成30年度）の目標達成に必要な経費として、平成23年度予算の概算要求を発表しました。

国土地理院の全体の概算要求額は、約111.1億円となっています。

主な要求概要は次のとおりです。

1. どこでも自分の位置が分かる仕組み作り

○最新宇宙測地技術を活用した高精度位置情報基盤の確立

－VLBI2010観測システム構築に向けた施設整備のための調査－ 要求額 15百万円

－電子基準点測量－ 要求額 732百万円

○場所情報コードを活用した位置情報サービスの実現

－場所情報コードの活用促進－ 要求額 2百万円

2. 自分の周りに何があるか分かる仕組み作り

○基盤地図情報の整備及び継続的更新のための仕組み作り

－基盤地図情報整備－ 要求額 1,748百万円

－基盤地図情報の活用促進－ 要求額 41百万円

○電子国土基本図と整合のとれた土地利用等の基礎的な地理空間情報の整備

－国土現況モニタリング－ 要求額 16百万円

3. 災害緊急時にも何が起きているのか速やかに分かり、安心して暮らせる仕組み作り

○くにかぜⅢを用いた被災地画像等の提供

－測量用航空機による機動撮影－ 要求額 77百万円

◇平成23年度国土地理院重点施策を発表

国土地理院は、地理空間情報を「新たな資源」として高度に活用するとともに、未来に向けて着実に成長する社会を実現するため、

①「どこでも自分の位置が分かる仕組み作り」

②「自分の周りに何があるか分かる仕組み作り」

③「災害等緊急時にも何が起きているのか速やかに分かり、安心して暮らせる仕組み作り」

上記項目を柱として、平成23年度国土地理院重点施策が、9月8日に発表されました。

重点施策の詳細は、以下のURLをご参照下さい。

http://www.gsi.go.jp/kikakuchousei/kikakuchousei_60014.html

国土地理院の重点施策

「どこでも安心して快適に過ごせる活力ある社会」の実現

○ 国土地理院を取り巻く近年の社会情勢の変化

- ◆ 長期債務の蓄積、人口減少及び少子高齢化の進展による高い社会保障コスト、労働人口の減少等の課題
- ◆ 未来に向けて成長していく社会の実現のために、情報通信技術を駆使した地理空間情報の活用が必要
- ◆ 地理空間情報活用推進基本法、海洋基本法及び宇宙基本法の施行と各基本計画の決定、国土形成計画及び社会資本整備重点計画の決定、並びにG空間行動計画の策定
- ◆ 地理空間情報の高度な活用の推進に向けた国土地理院の先導的取組への期待

地理空間情報活用推進基本法 (H19年)
「基本測量に関する長期計画」 (H21年度～H30年度)

○ 国土地理院の取組(平成23年度)

「基本測量に関する長期計画」に基づき、地理空間情報を高度に活用する社会を実現

- どこでも自分の位置が分かる仕組み作り
- 自分の周りに何があるか分かる仕組み作り
- 災害等緊急時にも何が起きているか速やかに分かり、安心して暮らせる仕組み作り

重点項目

I. どこでも自分の位置が分かる仕組み作り

- ① 最新宇宙測地技術等を活用した高精度位置情報基盤の確立
- ② 地殻変動監視のための国際共同観測の推進
- ③ 場所情報コードを活用した位置情報サービスの実現

II. 自分の周りに何があるか分かる仕組み作り

- ① 基盤地図情報と電子国土基本図の一体的整備及び継続的更新のための仕組み作り
- ② 基盤地図情報の仕様改定
- ③ 地球規模の課題解決に向けた地理空間情報の活用を推進
- ④ 人工衛星等宇宙技術により得られた最新画像の活用による地理空間情報整備
- ⑤ 電子国土基本図と整合がとれた土地利用等の基礎的な地理空間情報の整備
- ⑥ 電子国土Webシステムの機能強化と普及
- ⑦ 地理空間情報を高度に活用できる人材の育成及び測量資格制度の見直し

III. 災害等緊急時にも何が起きているか速やかに分かり、安心して暮らせる仕組み作り

- ① 火山監視機器の高度化やそれを用いた火山観測
- ② 都市域の改変地形情報の更新と脆弱性に関する情報の高度化
- ③ くにかぜ目を用いた被災地画像等の提供
- ④ 地殻変動関連情報、被災地域周辺の地図、災害概況図等の迅速な提供
- ⑤ 緊急時の地理空間情報活用についての地方公共団体等に対する技術支援

主な予算項目

I. どこでも自分の位置が分かる仕組み作り

- ① 最新宇宙測地技術等を活用した高精度位置情報基盤の確立
 - ー VLBI2010観測システムに向けた施設整備のための調査
 - ー 電子基準点測量
- ③ 場所情報コードを活用した位置情報サービスの実現
 - ー 場所情報コードの活用推進

II. 自分の周りに何があるか分かる仕組み作り

- ① 基盤地図情報と電子国土基本図の一体的整備及び継続的更新のための仕組み作り
 - ー 基盤地図情報整備
 - ー 基盤地図情報の活用促進
- ⑤ 電子国土基本図と整合がとれた土地利用等の基礎的な地理空間情報の整備
 - ー 国土現況モニタリング

III. 災害等緊急時にも何が起きているか速やかに分かり、安心して暮らせる仕組み作り

- ③ くにかぜ目を用いた被災地画像等の提供
 - ー 測量用航空機による機動撮影

重点施策概要

◇オルソ画像の閲覧サービスを開始

国土地理院は、電子国土 Web システムによるオルソ画像(*)の閲覧サービスを7月13日より富山地区を含む5地区で開始しました。また、8月2日より新潟県の見附地区、石川県の金沢地区を含む49地区が追加となり、提供地域は北陸管内3地区、全国54地区(9月末現在)に拡大されています。

閲覧には、以下の URL をご参照下さい。

URL : <http://www.gsi.go.jp/johofukyu/johofukyu40003.html>



公開中の金沢地区閲覧サイトイメージ

*オルソ画像とは

歪みを補正し、真上から見た傾きのない空中写真の画像データで、位置情報を付加されたものです。その特性より、画像上で位置や面積、距離などを正確に計測することが可能です。

◇第4回「とやまみんなの地図作品展」作品展のご案内

富山県の小・中学生が身のまわりの環境や地域の姿を自ら観察・調査し、地図として表現することにより、環境や地図さらには地域に関心を深めることを目的に開催される「とやまみんなの地図作品展」も今年で第4回を迎えることになりました。

会場は、富山市の「フューチャーシティ・ファボーレ」にて、11月27日～28日の2日間にかけて開催されます。

今回の地図作品展の開催は、5月に設立した「とやま地図作品研究会」が初めて主催する作品展になり、優秀作品は「全国児童生徒地図作品展」へ出品・展示され、文部科学大臣賞・国土交通大臣賞の選考対象作品になります。

作品展についての問い合わせは、以下の窓口までご連絡下さい。

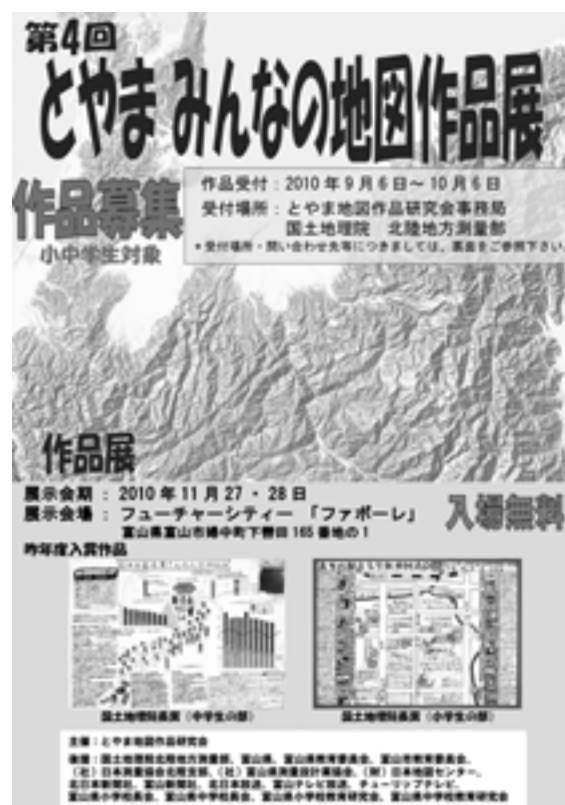
○問い合わせ窓口

とやま地図作品研究会 事務局

(日本測量協会北陸支部)

〒939-8094 富山市大泉本町1-12-14

TEL 076-422-3305



◇基盤地図情報の最新提供状況（8～10月）

基盤地図情報の縮尺レベル2500最新提供地域は、以下の2県3市になります。

5mメッシュ 標高点（DEM）は、新潟県の7市3町が公開されています。

1. 縮尺レベル2500

○2010年8月1日 提供開始

新潟県：妙高市（一部）

○2010年10月1日 提供開始

福井県：越前市（全域）

新潟県：新潟市（一部）

2. 5mメッシュ 標高点（DEM）：写真測量を基に作成

○2010年9月1日 提供開始

新潟県：聖籠町、田上町（全域）

新潟県：新潟市、三条市、新発田市、加茂市、五泉市、阿賀野市、胎内市、阿賀町（一部）

詳細については、以下のURLをご参照下さい。電子国土ポータル上で位置確認が可能です。

URL：<http://www.gsi.go.jp/kiban/seibi.html>



妙高市基盤地図情報閲覧サイトイメージ

新刊地図（北陸地方測量部関連）

100万分 1 日本（四六判 9 色）

図 名	刊行年月日
日 本 II	H22. 8. 1

500万分 1 日本とその周辺（四六判 9 色）

図 名	刊行年月日
日本とその周辺	H22. 10. 1